



# 第 715 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

〈プログラム係 昭和医科大学江東豊洲病院こどもセンター 阿部 祥英〉

## 一般演題 (1) 14:00 - 14:30 座長 山下 恒聖 (昭和医科大学医学部小児科学講座)

### 1) 新生児期にけいれん重積状態を呈した 1 例—搬送前対応を含めた検討—

○天野 景勝、新村 啓、渡邊 由祐、宗 舞佳、鈴木 崇、山田 ひかり、千代反田 雅子、山中 岳  
(東京医科大学病院小児科・思春期科)

日齢 26 の新生児。無熱性けいれん重積で近医を受診した。当院へ搬送され、発見から 54 分後にフェノバルビタール静脈注射で頓挫した。第 3 病日以降はけいれんなく経過し、頭部 MRI 検査の拡散強調像で認めていた左頭頂葉の高信号が消失したことを確認し第 18 病日に退院した。けいれん重積は早期頓挫を要するが、新生児期の初期対応指針は十分整理されていない。一次医療現場における抗けいれん薬介入の適否について検討する。

### 2) 肺膿瘍再燃との鑑別を要した急性虫垂炎の 1 例

○根来 大雅、新井 喜康、神保 圭佑、永田 万純、三森 愛美、中村 明雄、中野 聡、仲川 真由、中原 絵理、稲毛 英介、安部 信平、東海林 宏道

(順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

12 歳男児。発熱と右腰背部痛を主訴に当院を紹介受診し、胸部造影 CT で右肺膿瘍と診断し入院加療とした。抗菌薬投与 13 日目の胸部 CT で膿瘍消失を確認したが、第 15 病日に同様の疼痛と嘔気が出現した。肺膿瘍の再燃を疑った一方、腹部単純 X 線で孤立ガス像を認め、腹部超音波検査で虫垂腫大を確認し急性虫垂炎と診断した。肺感染症治療中に同部位の腰背部痛が再燃した際は、病態を再評価し、消化器疾患も鑑別を要する。

### 3) prick-to-prick test が診断に有用であったリンゴアレルギーの 1 例

○村山 主税、矢野 万紀子、伊藤 環、冠城 祥子、鳴海 覚志

(慶応義塾大学医学部 小児科)

3 歳男児。リンゴ、イチゴ、スナック菓子摂取直後から咽頭痛、口唇腫脹、咳嗽を認めた。血清リンゴ、イチゴ特異的 IgE は陰性だったが、加熱および非加熱リンゴ、イチゴ、スナック菓子の prick-to-prick test (PTP) で非加熱リンゴのみが陽性となった。非加熱リンゴを除去し症状の再発はない。果物の血清特異的 IgE は熱に不安定なコンポーネントに対し偽陰性となりやすい。PTP の有用性が再認識された。

## 一般演題 (2) 14:30 - 15:00 座長 細谷 要介 (聖路加国際病院小児科)

### 4) けいれん重積型急性脳症を契機に診断された B 前駆細胞性急性リンパ性白血病

○梨田 北斗、石橋 佑脩、芦澤 樹、山下 基、鈴木 喬悟、星野 顕宏、神谷 尚宏、磯田 健志、金兼 弘和、高木 正稔

(東京科学大学病院 小児科)

2 歳女児。有熱時けいれん重積と脳波の徐波化を認め、急性脳症として前医でステロイドパルスと脳平温療法が開始された。その後、末梢血に芽球を認めたため当院に紹介され、B 前駆細胞性急性リンパ性白血病 (BCP-ALL) の診断に至った。中枢神経白血病は否定的である、頭部 MRI 画像初見と照らし合わせてけいれん重積型急性脳症 (AESD) と考えられた。初発時に AESD を合併した BCP-ALL を経験したので報告する。

## 5) シロリムス長期治療終了後早期に再増悪を認めた左大腿カポジ型血管内皮腫の1例

○久保田 光毅<sup>1,2)</sup>、前川 貴伸<sup>2,5)</sup>、飯島 弘之<sup>2)</sup>、宮坂 実木子<sup>3,5)</sup>、下島 直樹<sup>4,5)</sup>、窪田 満<sup>2)</sup>、庄司 健介<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 国立成育医療研究センター 教育研修センター、<sup>2)</sup> 同 総合診療部、<sup>3)</sup> 同 放射線診断科、<sup>4)</sup> 同 小児外科、<sup>5)</sup> 同 脈管疾患センター)

5歳男児。生後1か月時に左大腿の腫脹が出現し、4か月時にカポジ型血管内皮腫(KHE)と診断してシロリムス治療を開始した。治療反応は良好で、開始後1年までに腫瘍は縮小し、以後も病勢は安定した。4歳時にMRIで十分な腫瘍退縮を確認し治療を終了したが、2か月後に大腿部痛が出現しKHEの再増悪を認めた。治療を再開し症状は改善傾向にある。KHEの長期管理と治療中止判断の課題について文献的考察を含め報告する。

## 6) 腹部膨満・肺炎を契機に診断された横隔膜原発横紋筋肉腫の2例

○佐藤 崇平、原田 真由、本間 大器、田中 克侑、神尾 卓哉、秋山 政晴、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学附属病院 小児科)

横紋筋肉腫は小児軟部悪性腫瘍では最多で、発生部位により多彩な症状をとる。横隔膜原発の場合、隣接臓器への浸潤により診断時には進行例で発見されることが多い。今回、我々は腹部膨満で発見された3歳男児と肺炎を契機に発見された13歳女子の2例を経験した。いずれも画像検査で横隔膜由来腫瘍を認め、病理学的に横紋筋肉腫と診断した。周囲重要臓器との関係から初回切除困難であり、生検後速やかに化学療法を導入した。

\* \* 休 憩 15:00 - 15:10 \* \*

感染症だより 15:10 - 15:25 (講演: 15分)

講師 北村 則子 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所)

感染症疫学センター・予防接種研究部併任)

共催セミナー 15:25 - 16:05 (講演: 40分)

「ライソゾーム病の診断～日常診療から早期診断・早期治療へ導くために～」

座長 小川 えりか (東京都立広尾病院)

講師 西田 ひかる (東京慈恵会医科大学小児科学講座)

ライソゾーム病は稀な疾患ではあるが、日常診療の中に早期診断の契機が潜んでいる。これらの多くは、早期診断、早期治療介入により、合併症の進行抑制や予後改善が期待される。本講演では、一般診療での気づきから診断に至った症例を提示しながら、「いつ疑うか」「どのように専門医へ繋ぐか」に焦点を当て、早期診断につながる実践的視点を共有する。さらに、それぞれの疾患における現行の治療法についても紹介する。

共催：サノフィ株式会社

\* \* 休 憩 16:05 - 16:15 \* \*

教育講演 16：25－17：30（講演：60分＋質疑応答：5分）小児科領域講習 1単位

「川崎病の原因論 65年の時空を超えたミステリー」

座長 窪田 満（国立成育医療研究センター 総合診療部）

講師 伊藤 秀一（横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学）

1961年1月に川崎富作先生が初めて川崎病患者に遭遇されてから65年が経過した現在においても、その真の原因はなお不明のままである。川崎病の病因は、小児医学における最大のミステリーのひとつといえる。私たちは、環境省が主導する約10万人規模の前向き出生コホート研究であるエコチル調査を用いて、川崎病の発症リスクに関する疫学研究を進めている。本講演では、私たちの研究成果を交えながら、これまでに報告されてきたさまざまな病因論に関する研究を紹介する。あわせて、川崎病発見の歴史を振り返り、川崎富作先生が病因解明に寄せた思いについても改めて考えてみたい。

◆ 2026年度 講話会予定（会場開催のみ） ◆

■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第716回	2026年9月12日（土）	アットビジネスセンター 八重洲通	※演題締切りました
第717回	2026年10月10日（土）		※演題締切 2026年8月20日
第718回	2026年12月12日（土）		※演題締切 2026年9月20日
第719回	2027年1月9日（土）		※演題締切 2026年11月20日
第720回	2027年2月13日（土）		※演題締切 2026年12月20日
第721回	2027年3月13日（土）		※演題締切 2027年1月20日

\* 4, 5, 8, 11月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承ください。  
その場合事務局よりご連絡致します。

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedstokyo.com/>



## ■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support：JPLS）を2026年度は年間6回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii小児科領域講習3単位

開催日程	会場	申込開始時期
2026年6月7日（日）	東京慈恵会医科大学	締め切りました
2026年7月18日（土）	慶應義塾大学	締め切りました
2026年9月5日（土）	帝京大学	締め切りました
2026年12月6日（日）	日本大学	2026年8月初旬 募集開始
2027年1月24日（日）	東京大学	2026年9月下旬 募集開始
2027年2月7日（日）	国立成育医療研究センター	2026年10月初旬 募集開始

募集人数：12名 ※最少催行人数8名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても小児科学会 HPにてご確認ください

[https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=221](https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221)

## ◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

### 【2026年会費納入について】

2024年度より年会費が8,000円となっております。

2026年度会費納入のお知らせを2026年4月1日以降メールおよびホームページにてご案内いたしました。2026年度会費及び2025年度・2024年度会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

\*3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

\*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

\*講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

### 【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

### 【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認ください。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

## ◆ 関連学会の講演情報 ◆

### 第 132 回 東京小児科医会学術講演会のご案内

ハイブリッド開催、オンデマンドのみ小児科領域講習専門医 2 単位取得可能（申請中）

開催日程：令和 8 年 7 月 12 日（日）13：00～17：00

開催場所：東京医科大学病院 教育研究棟（自主自学館）3 階大教室

オンデマンド配信期間：8 月 1 日（土）～8 月 23 日（日）

オンデマンド申込期間：7 月 13 日（月）～8 月 14 日（金）

クレジットカード決済の方に限り 8 月 20 日（木）まで受け付けします。

詳細：東京小児科医会ホームページ <https://tokyo-pediatrics.org/>

【主幹校（会長校）】東京慈恵会医科大学小児科

【運営事務局】合同会社新生児小児研究会

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ [jpstokyo-office@umin.ac.jp](mailto:jpstokyo-office@umin.ac.jp)

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

